

住民はなぜ行動しないのか？

中谷内 一也
(なかやち かずや)

同志社大学 心理学部

▪なぜ、避難しないのか？

避難を促すための取り組み

大災害 → 検討委員会 → ガイドラインの改訂

ガイドラインの近年の傾向

- 精緻化（複雑化）
- 避難とは避難所に移動することではない
- 住民の主体性の強調

災害情報の質や手段が発展すると、それを受け取る住民の“こころ”の問題がいっそう重要になる

・なぜ、準備しないのか？

リスク認知パラドックス

リスク認知研究の暗黙の前提



ところが、従来の研究をメタ分析すると；

- ・ リスク認知は準備行動をほとんど説明しない
- ・ あるいは、まったく関係がない

ことが報告されるようになった

(Wachinger, et al., 2013; Shreve et al., 2014など)

なぜ？ やはり “こころ” の問題の重要性

今後は、

- ・ 短期的な災害情報 → なぜ、避難しないのか？
 - ・ 長期的なリスク情報 → なぜ、準備しないのか？
- ともに精度が向上し、伝達手段も発展する

であれば、一層、こころの問題へのアプローチが重要になるだろう

そのような問いに対して
住民の心理を理解し、解
決の処方箋を示す書籍

タイトルの意図は？



二重過程理論

人には異なる2つの思考のシステムが備わっている

システム 1（経験的システム）	システム 2（分析的システム）
感覚的	分析的
感情を基盤	論理を基盤
素早く・ラクに・直感で判断	時間をかけ・頭を使って・理屈で判断
直截的な反応	慎重な反応
具体的な映像・画像、 個別事例で現実を理解	抽象的な数値や統計量、 一般性により現実を理解

システム1（経験的システム）とシステム2（分析的システム）
のどちらが優勢か？

人類は長い進化の歴史を

- ・数十名単位のお互いに“顔の見える”バンドを形成し、
- ・すばやい行為選択を要する狩猟採集を行いながら、
“いま・ここ”の危機をサバイバルしてきた。

→ 誰にも両方のシステムが備わっているものの、私たちの
日常的な判断や行為決定ではシステム1が優勢

このため、論理的なリスク情報を提供しても、
理解はされるが行動はかわらない、となりがち。

6つのクセ

- 近視眼的思考癖
- 楽観癖
- 惰性癖
- 忘却癖
- 単純化癖
- 同調癖

6つのクセ

- ・近視眼的思考癖

なぜ避難しないのか？に関して
～ 解釈レベル理論

なぜ準備しないのか？に関して
～ 双曲価値割引

解釈レベル理論

ハリケーン・サンディ(2012)時の沿岸地域調査
上陸48時間前調査「避難命令に従う 60%」



12時間後、実際に避難命令発出
命令に従うとの回答が大幅低下



実際の避難率 19%

なぜ、危機が迫って避難意図が低下するのか？

解釈レベル理論

心理的に遠いことから

ものごとの本質的、抽象的意義で判断

→ システム2優勢

先々のことなら、命の重要さにプライオリティ

心理的に近いことから

ものごとの周辺の、具体的細部に注意が向けられる

→ システム1優勢

目先のことは、細事の問題解決が必要になる

双曲割引

今日もらう1万円は来月のいくらと等価？

少しでも先延ばしされると価値は大きく減じる

1年後にもらう1万円は1年1ヶ月後のいくらと等価？

この1ヶ月の価値減少はほとんどない

コストも今日の負担は深刻だが、先だと楽に思える

浸水対策工事に100万円払えば、保険料が毎年
10万円下がるとしたら？

今、決めてもいいし、来月でも良い

→ 先延ばしの繰り返しで、工事は行われない

6つのクセ

- 近視眼的思考癖
- **楽観癖**
- 惰性癖
- 忘却癖
- 単純化癖
- 同調癖

楽観癖

- ・楽観バイアス

災害が起こらない、という思い込みではなく
自分に被害はない、という思い込み

ハリケーン・サンディ(2012)時のアトランティック市調査

長時間の暴風にさらされると80%以上の人が予想

一方、国立センターの予想は32%以下

→ ハリケーンがやって来ることは過大評価

暴風雨対応シャッターの取り付け意図は約半数

避難計画実行意図は21%

→ 被害を被るとは思っていない

“我がこと化”の難しさ

なぜ、自分は大丈夫と思うのか？

- ・利用可能性 (Availability) ヒューリスティック
イメージしやすいこと、頭に浮かびやすいことは
高頻度、高確率で生じるという判断のしかた
～ 報道などで見る被災者は常に他人
- ・動機づけられた推論 (Motivated Reasoning)
願望に沿った情報を選択的に集め、望ましくない
ことをイメージすることは避ける

なぜ、とりあえず今は大丈夫と思うのか？

- ・複合リスクの判断バイアス

100年に1度浸水する地域に25年住むリスクは？

“30年前にあったので、あと70年は大丈夫！”

“今年来る確率は1%！”と毎年繰り返して思う。

25年間で一度は被災する確率は22.2%

6つのクセ

- 近視眼的思考癖
- 楽観癖
- **惰性癖**
- 忘却癖
- 単純化癖
- 同調癖

惰性癖（現状維持の誘惑）

2004年9月、風速60m超のハリケーン・アイヴァンがニューオーリンズ市を襲う

- ・堤防と揚水ポンプの老朽化
- ・交通手段、避難施設なしの要支援住民10万人超
スーパードームはNG

直前（2日前）に進路を変えニューオーリンズは無傷
危機を経験して、抱える問題が明確に

2005年8月、ハリケーン・カトリーナが上陸
堤防の亀裂55カ所、1400人以上死亡、40万人住居消失

なぜ、対策を打たなかったのか？

何といっても予算の制約

→トレードオフが必要になる

- ・オMISSIONバイアス
- ・初期設定の影響

オMISSIONバイアス

田中さん:

A社株を保有。1年前、B社株に買い換え検討も、そのままに。動かなかったために12万円儲け損ねた。

山本さん:

B社株を保有も、1年前、A社株に買い換え。動いたために12万円儲け損ねた。

後悔が大きいのは、どちら？

ワクチン接種忌避はなぜ？

初期設定の影響

保険料廉価も、小事故での裁判権利制限

vs

→ NJ 79%; PA 30%

保険料高価も、裁判権利の制限なし

ヨーロッパでの運転免許保有者の臓器提供登録率

→ 初期設定でほぼ説明がつく

複雑な資源配分(システム2処理)を回避し、シンプルな解決(システム1処理)が選ばれる

次のステップへ

心理的な“癖”を理解、その弊害を乗り越える
→ 癖を補う制度作りへ

行動リスク監査

癖を克服し、利用する制度設計

例えば;

将来、マイホームや子育てに必要な概算や積立額を理解したとする(システム2の仕事)

放っておいては、システム1により「目先の楽しみに無駄遣い(近視眼的思考癖)」や「そのうち何とかなる(楽観癖)」で貯まらない

・・・ということを理解できれば、自動積み立て制度の利用を考
えるだろう

つまり、(1) セルフコントロール下手を理解すること、
(2) それを補う制度があること、が必要

- 選択を導く制度設計

- e.g., 住宅購入時の備蓄を初期設定化する

- 目に見えるベネフィットを即時的に提供し、
コストは将来負担

- 強制的な制度

- e.g., 耐震基準引き上げ